

次期産業振興における施策の「柱」についての検討

1. 本市の経済・産業をめぐる状況についての再整理

(1) 本市の経済・産業に関する強み・弱み

これまでに見てきた統計資料や、計画策定に先立ち実施したアンケート調査の結果、及び庁内ワークショップでの意見等に基づき、本市の経済・産業の「強み」と「弱み」について以下のように整理した。

視点	強み	弱み
人口	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代の転入が多い（0～14歳） 	<ul style="list-style-type: none"> 20代前半の転出が多い 合計特殊出生率が低い
交通・立地	<ul style="list-style-type: none"> 交通利便性が高い（外部から企業や買い物客等呼び込めるという点では強み） 首都圏に立地（顧客や労働力となる人口が多いという点では強み） 	<ul style="list-style-type: none"> 交通利便性が高い（買い物客等が市外に流出するという点では弱み） 首都圏に立地（ライバルが多いという点では弱み）
まちの賑わい	<ul style="list-style-type: none"> 商業が集積（宿泊業・飲食業を含む） 買い物に便利なまちというイメージ 様々な行事が開催されている 文化芸術ホールの整備 南町田駅の再開発 	<ul style="list-style-type: none"> 娯楽やレジャー施設が少ない 販売額、店舗数等の減少 空き店舗増加 中心市街地の交通量減少 事業承継の問題
既存の事業者	<ul style="list-style-type: none"> 技術力のある企業が存在（トライアル認定事業者） IT等、成長分野の企業が多数存在 企業等の連携（異業種間含む）が活発 	<ul style="list-style-type: none"> 規模の小さい事業者が多い 一人当たり製造品出荷額等が低い 地元商品のブランド力が弱い 事業承継の問題 特許取得数が少ない 地価が高い 事業用地が不足 市内で活動する団体同士の関係が希薄
新産業の育成	<ul style="list-style-type: none"> 起業・創業意欲が高い 行政からの支援が充実 大学等が多く、若い年齢層が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 起業・創業支援施設が飽和状態 起業・創業する場所が不足 地価が高い
はたらく	<ul style="list-style-type: none"> 労働力人口に伸びしろ（女性等） 働きやすい企業が多い 職住近接や子育ての支援充実 	<ul style="list-style-type: none"> 有効求人倍率が低い 高校・大学等卒業後の転出が多い
まち・くらし	<ul style="list-style-type: none"> 緑が豊か 町田をホームとするプロスポーツチームが多数存在 能力やノウハウを持った高齢者が多い 都市農業が盛ん まちに愛着を持っている人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 治安が悪い バリアフリー化が進んでいない 団地を中心に空き家が増加

(2) 本市の経済・産業に関する今後の機会・脅威

先にまとめた国の方針や、今後の社会の変化等を踏まえると、本市の経済・産業に対する今後の「機会」・「脅威」について以下のように整理される。

視点	機会	脅威
人口	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進行（高齢者向け等の新たな市場が成長する可能性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少 ・少子高齢化の進行（既存市場の活気が減衰する可能性） ・世帯人員の減少、世帯構成の多様化
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道路線の利便性向上（買い物客等を市内に誘引できる可能性） ⇒小田急の複々線化、小田急多摩線や多摩モノレールの延伸等 ・IT や AI、自動運転技術を用いた交通システムの導入による交通利便性向上 ・リニア中央新幹線の開通（町田へのアクセスが向上する、域外から人や起業が流入するという点では機会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道路線の利便性向上（買い物客等が市外に流出する可能性） ・物流のスピードが向上 ・リニア中央新幹線の開通（町田から人や企業が流出するという点では脅威）
商業・観光等	<ul style="list-style-type: none"> ・「モノ消費よりコト消費」という志向が強まる ・シェアリングエコノミーの普及による「モノ」を所有しない文化の浸透 ・外国人観光客の誘致を国が推進（オリンピック・パラリンピックを含む） ・消費者ニーズの多様化（大量生産でない、独自の商品・サービスの強みを活かせるという点では機会） ・ネット通販の成長（ネット通販事業者にとっては機会） ・観光地の「稼ぐ力」の強化を国が推進 ・キャッシュレス化の普及による決済方法の多様化 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣地域に大型商業施設が開業 ・近隣及び全国の観光地との競争激化 ・ネット通販の成長（ネット通販と競合する実店舗にとっては脅威） ・消費者ニーズの多様化（今後は多様なニーズへの対応が求められるという点では脅威）
既存の事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・海外進出、新分野への進出を国等が支援 ・生産性向上の取り組みを国等が支援（競合他社と差をつけるという点では機会） ・IT や AI 等の導入により、資金調達や管理業務など、企業経営上必要な業務が効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内及び海外企業との競争激化 ・労働人口の減少（人材確保の競争激化） ・生産性向上の取り組みを国等が支援（競合他社の生産性が向上するという点では脅威） ・経営者の高齢化の進行
新産業の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・新産業育成の取り組みを国が推進 ・医療・介護・健康関連分野等における先端技術（IT 等）の導入促進により、当該分野の市場が拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働人口の減少（人材確保の競争激化）
はたらく	<ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい環境づくりや働き方・働く場の多様化など、「働き方改革」を国が推進 ・AI・ロボット等の導入促進により、業務の負荷が軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の仕事のAI・ロボット化

(3) 内的要因・外的要因の組み合わせから考えられる、本市の取り組み課題

今後訪れる「機会」・「脅威」に対し、本市の内的な特徴に基づき、産業振興における重要な取り組み課題（「強み」の活用・「弱み」の克服）として、以下のようなものが考えられる。

※各項目中の（+）は強みとなる事項、（-）は弱みとなる事項

(A) 【機会】 今後は産業・医療・介護・交通・物流など様々な分野でIoT・AI等の新たな技術の重要性が増し、当該分野の成長が期待される

【機会】 技術革新によってこれまで難しかったことが実現可能になり、新しいことにチャレンジする既存企業や新規起業者の増加、異業種連携の活性化なども期待される

⇒これに対し、町田市の状況は以下の通り

- (+) 町田新産業創造センターを中心とした創業支援が充実している
- (+) 新たな技術やサービス等の開発に取り組む企業や人材が多数存在している
- (+) 起業・創業への意欲の高い人材が集まっている
- (+) 異業種間連携（6次産業化等の取り組み）が活発である



本市には、新たな産業分野に取り組みやすい土壌がある。この強みを活かし、新産業分野での起業・創業や既存企業の新産業進出へのチャレンジを促進することで、今後、当該分野において町田市の企業が他をリードしていくことも期待できる。

(B) 【脅威】 企業経営者の高齢化進行に伴い、事業承継の問題が顕在化

【脅威】 労働人口の減少により、人材確保において他の企業等との競争が激化

【機会】 AIやロボット等の導入により、生産性が向上

【機会】 資金調達方法の多様化・効率化や、IoT・AI等の導入による事務処理の効率化など、企業経営における様々な業務の負担が軽減

⇒これに対し、町田市の状況は以下の通り

- (-) 「後継者が決まっている」という企業は3割程度（アンケート結果より）
- (-) 多くの企業にとって、人材の確保が課題となっていることが伺える



事業承継・人材の確保など、今後の事業継続に関する問題を抱えている企業が少なくないことが伺える。今後も既存企業の活力の維持・増進を図っていくためには、既存企業の事業継続に関する問題の解消を支援することが重要である。また、起業・創業したばかりの企業においても、長く事業を継続できるような基盤づくりなどについて支援を行っていくことが重要である。

(C)【脅威】新技術導入による生産性向上や、経済のグローバル化などを通じ、国内外の企業との競争激化が予想される

【脅威】町田市の近隣で商業施設の開発や観光振興の取り組みが行われ、市内の商業地や観光施設等との競争が激化することが予想される

【脅威】近隣地域に大型商業施設が開業し、これまで以上に商業分野の競争が激化することが予想される。

【機会】消費者ニーズの多様化や、「モノ消費よりコト消費」という志向の強まりなどに伴い、独自の魅力を持った製品やサービスに対する需要が高まることが予想される

【機会】交通利便性の向上やオリンピック・パラリンピックの開催などの影響により、これまで以上に国内外からの来街者が増加することが期待される

⇒これに対し、町田市の状況は以下の通り

- (-) 製造業の従業者一人当たり製造品出荷額等や特許取得件数が周辺自治体より少ない
- (-) 「町田ならではの」商品やサービスが確立されていない
- (+) 町田市には、高い技術力を持った企業が存在しており、またそうした企業を支援する仕組み（トライアル認定制度等）がある
- (+) 異業種間連携（6次産業化等の取り組み）が活発である
- (+) 駅前を中心に大型商業施設や飲食店、宿泊施設等の商業が集積している。



今後も競争力を維持・強化していくため、他社のまねできない技術・ノウハウの研究開発や実用化を支援したり、異業種間の連携を通じて商品・サービスの開発を促すなど、市内企業が独自の強みを持つよう支援を行い、市内企業の付加価値向上を促すことが重要である。また、併せて生産性向上の取り組みについて支援を行っていくことも、企業の競争力強化のためには重要である。

(D)【脅威】今後は生産年齢人口が減少し、労働力不足が深刻化する恐れがある

【機会】AI やロボット等の導入などにより、働く場での負担軽減が進み、女性や高齢者などの人材の活躍の場が広がる

【機会】テレワークなどによる多様な働き方が普及し、これまででは子育て中の女性など家庭と仕事の両立が難しかった人材についても活躍の場が広がる

⇒これに対し、町田市の状況は以下の通り

- (-) 多くの企業にとって、人材の確保が課題となっていることが伺える
- (-) 有効求人倍率が低く、「働きたい」という希望に対し働く場が少ないことが伺える
- (+) 現状では、若い年齢層が高校・大学等の卒業時に市外に流出してしまっているが、潜在的な労働力として期待することもできる
- (+) 女性の労働力率が低い、潜在的な労働力として期待することもできる



労働力人口が減少する中で、企業の存続に必要な人材が供給できるよう、潜在的な労働力の発掘に取り組むことが重要である。なお、町田市の現状として、女性の労働力率が低いこと、若者が多いことなどから、市内に潜在する労働力を発掘することは、人材確保において有効な手段と考えられる。

(E)【脅威】リニア中央新幹線の開通等による交通インフラの利便性が向上し、域外に人や企業が流出することが予想される。

【機会】労働力の確保や生産性の向上を目的に、国が「働き方改革」を推進。

【機会】AIやロボット等の新技術導入など、働く場での負担軽減が進む

⇒これに対し、町田市の状況は以下の通り

- (+) 潜在的な労働力が存在しており、働きやすい環境づくりを通じて新たな労働力を喚起する意義は大きい
- (+) 労働環境の改善に取り組む企業の表彰制度など、働きやすい環境づくりに資する取り組みがすでに行われており、「働き方改革」に取り組む下地が整っている
- (+) 将来の労働力となる0～14歳の若い世代の転入が多い。



将来にわたって人材供給力の維持・増進を図るため、他に先駆けて「働きやすいまち」を推進することにより、働きたいまち、働く人が住みたいまちとしての地位を高めることが重要である。

⇒以上をまとめると、本市の産業振興におけるキーワードとして次のようなものが挙げられる。

